

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE(仮称)イオンモール常滑 評価、CASBEE(仮称)イオンモール常滑 マニュアル ■使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2011 (bpt&bee) v.1.7_aichi

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)イオンモール常滑 新築工事	階数	地上2F
建設地	常滑市りんくう町2丁目20-3、9	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	20,339 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	5,475 時間/年
建物用途	物販店、飲食店、集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年11月 予定	評価の実施日	2014年11月6日
敷地面積	154,322.50 m ²	作成者	永野絵里奈
建築面積	50,306.98 m ²	確認日	2014年11月6日
延床面積	89,680.60 m ²	確認者	丸尾浩文



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% 900%

②建築物の取組み 96% 87%

③上記+②以外の 96% 87%

④上記+ 96% 87%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.1

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.5</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>3.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>5.9 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	5.9 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	5.9 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.4</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>3.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>地場産材である三州瓦を外装に採用</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	県独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								3.5
Q1 室内環境								2.9
1 音環境								
1.1 騒音								
1 室内騒音レベル				3.0	1.00	-	-	
2 設備騒音対策				-	-	-	-	
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能				1.0	0.96	-	-	
2 界壁遮音性能				3.0	0.04	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	
1.3 吸音								
1.3 吸音				1.0	0.20	-	-	
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1 室温				3.1	0.50	-	-	
2 設備変動・過往制御性				3.0	0.50	-	-	
3 外皮性能				4.0	0.17	-	-	
4 ゾーン別制御性				3.0	0.33	-	-	
5 温度・湿度制御				-	-	-	-	
6 個別制御				-	-	-	-	
7 時間帯空調に対する配慮				-	-	-	-	
8 監視システム				-	-	-	-	
2.2 湿度制御								
2.2 湿度制御				3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式								
2.3 空調方式				1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1 昼光率				4.0	0.25	-	-	
2 方位別開口				5.0	0.55	-	-	
3 昼光利用設備				5.0	1.00	-	-	
3.2 グレア対策								
1 照明器具のグレア				-	-	-	-	
2 昼光制御				-	-	-	-	
3 映り込み対策				-	-	-	-	
3.3 照度								
3.3 照度				3.0	0.45	-	-	
3.4 照明制御								
3.4 照明制御				3.0	0.45	-	-	
4 空気環境								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質				3.1	0.25	-	-	
2 アスベスト対策				3.0	0.50	-	-	
3 ダニ・カビ等				3.0	1.00	-	-	
4 レジオネラ対策				-	-	-	-	
4.2 換気								
1 換気量				3.5	0.30	-	-	
2 自然換気性能				3.0	0.50	-	-	
3 取り入れ外気への配慮				4.0	0.50	-	-	
4 給気計画				-	-	-	-	
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視				3.0	0.20	-	-	
2 喫煙の制御				3.0	0.50	-	-	
3.0				0.50	-	-		
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性				4.2	0.40	-	-	
2 高度情報通信設備対応				5.0	0.40	-	-	
3 バリアフリー計画				5.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観				4.4	0.30	-	-	
2 リフレッシュスペース				5.0	0.34	-	-	
3 内装計画				3.0	0.30	-	-	
5.0				0.36	-	-		
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.30	-	-	
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務				3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震								
1 耐震性				3.0	0.31	-	-	
2 免震・制振性能				3.0	0.48	-	-	
3.0				0.80	-	-		
3.0				0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数				2.6	0.33	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				2.0	0.23	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.09	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.08	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				4.0	0.15	-	-	
2.0				0.23	-	-		

2.4 信頼性					3.6	0.19			
1	空調・換気設備				3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備				5.0	0.20			
3	電気設備				3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5	通信・情報設備				4.0	0.20			
3 対応性・更新性					3.6	0.29			3.6
3.1 空間のゆとり					5.0	0.31			
1	階高のゆとり			階高:5.4m以上	5.0	0.59			
2	空間の形状・自由さ			壁長さ比率:0.1未満	5.0	0.41			
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.31			
3.3 設備の更新性					3.0	0.38			
1	空調配管の更新性				3.0	0.17			
2	給排水管の更新性				3.0	0.11			
3	電気配線の更新性				3.0	0.11			
4	通信配線の更新性				3.0	0.22			
5	設備機器の更新性				3.0	0.22			
6	バックアップスペース				3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30			4.1
1 生物環境の保全と創出		●	③		3.0	0.30			3.0
2 まちなみ・景観への配慮		●	④	植栽による良好な景観形成、視点場からの景観配慮	5.0	0.40			5.0
3 地域性・アメニティへの配慮					4.0	0.30			4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●	④	空間・施設機能の提供による地域貢献、中間領域の形成	5.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上					3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-			3.4
LR1 エネルギー					-	0.40			3.5
1 建築物の熱負荷抑制				断熱性能の高い建材の採用	3.1	0.30			3.1
2 自然エネルギー利用					3.5	0.20			3.5
2.1 自然エネルギーの直接利用				ハイサイドライトの採用	4.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用					3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化				LED照明、高効率機器の採用	4.3	0.30			4.3
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)					4.3				
集合住宅の評価					3.0				
4 効率的運用					3.0	0.20			3.0
4.1 モニタリング					3.0	0.50			
4.2 運用管理体制					3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル					-	0.30			3.5
1 水資源保護					3.4	0.15			3.4
1.1 節水				過半に節水器具を採用	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	0.67			
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減					3.7	0.63			3.7
2.1 材料使用量の削減				コンクリート量、鉄筋・プレース等の材料削減への取組み3つ	4.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	-	3.0	0.20			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		●		トレのビニル床シート、イオンホールの岩綿吸音板の2種類に採用	4.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材					2.0	0.05			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組		●		OAフロアの採用、躯体+LGS+仕上の構造	5.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.22			3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.68			
1 消火剤					-	-			
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	0.50			
3 冷媒					3.0	0.50			
LR3 敷地外環境					-	0.30			3.2
1 地球温暖化への配慮			①	参照値に対してCO2排出率87%	3.5	0.33			3.5
2 地域環境への配慮					3.1	0.33			3.1
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.7	0.25			
1 雨水排水負荷低減		●			3.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25			
3 交通負荷抑制		●		適切な駐輪・駐車スペースの確保、バス停の設置	5.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制				ゴミの種類や量の推計、分別回収のスペース確保、容器の設置	4.0	0.25			
3 周辺環境への配慮					3.1	0.33			3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40			
1 騒音		●			3.0	0.50			
2 振動		●			3.0	0.50			
3 悪臭					-	-			
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40			
1 風害の抑制					3.0	0.70			
2 砂塵の抑制					3.0	-			
3 日照障害の抑制					3.0	0.30			
3.3 光害の抑制					3.7	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				屋外サッシ照明のチェックリストの過半を満足	4.0	0.70			
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30			

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEEあいち評価マニュアル2011年度

(仮称)イオンモール常滑 新築工事

■評価ソフト:

CASBEE-NCb_2011 (bpi&bei) v.1.7_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.5
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10	
② 資源の有効活用				3.4
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	
④ 地域材の活用				3.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	2.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)イオンモール常滑

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>本施設のデザインコンセプトは“ま・ね・く”として、世界に開かれた空の玄関口(エアフロントシティ)として、来訪者にファーストインプレッションを与える施設を展開する。</p>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共用部のモール、吹抜部には、トップライト、ハイサイドライトを設置して、昼光利用に配慮している。 ・吸気口は、各種排気口と6m以上の離隔距離を確保して、取り入れ外気への配慮をしている。
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築物移動等円滑化誘導基準を満足するだけでなく、さらに県の望ましい整備指針のいくつかの措置を取り入れ、機能性・使いやすさに配慮している。 ・耐用年数の長い配管材を採用し、部材の長寿命化に配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パースを作成し、視点場からの良好な景観形成に配慮している。 ・空間・施設機能の提供による地域貢献、テラスによる中間領域の形成等、地域性・快適性の向上に配慮している。
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LED照明、高効率機器の採用し、省エネに配慮する。
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・節水器具を採用し、水資源保護に配慮する。 ・リサイクル材や再利用可能な部材を採用し、非再生資源の使用量削減に配慮する。
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な駐輪・駐車スペースを確保し、交通負荷抑制に配慮する。 ・ゴミの種類や量の推計、分別回収のスペース確保、容器を設置し、廃棄物処理負荷抑制に配慮する。
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>